



地域防災・減災センター
Center for local disaster prevention and mitigation

2022 年度 年次報告書



国立大学法人山口大学 地域防災・減災センター

2023 年 4 月

はじめに

山口大学地域防災・減災センターは、2020年7月に本学研究拠点群形成プロジェクトの活動の場として発足し、2023年3月末におおよそ3年が経過しました。その間、新型コロナウイルス感染症は消長をくり返しながら継続的に拡大し、また、豪雨や地震による被害が相次いで発生しました。多くの人々にとって感染対策をしながら防災対策や災害対応を行う困難な状況であったと推察します。

2022年度の自然災害の発生状況を振り返ると、国内では幸いにも多くの人命が失われる災害は起こりませんでした。四方を海に囲まれる日本は温暖化の影響をより強く受けていると考えられるので、一時的にも安心することはできません。また、国外においても、温暖化の影響により、各地で洪水、旱魃、山火事などが発生し、多くの人々が被害に遭い、厳しい状況に追い込まれています。政府が掲げるカーボンニュートラルを達成するためには、CO₂の排出抑制はもとより、CO₂を吸収・貯留する技術の開発・実用化も喫緊の課題になっています。

自然災害、感染症以外では、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が2年目を迎え、今のところ終結する気配はみられません。エネルギー、資源、食糧など生活に欠かせないものが世界的に不足し、社会の不安定さが一層増したように思われます。

以上のように、気候変動による豪雨災害は激甚化・頻発化の様相を呈し、さらに南海トラフ地震や首都直下地震のような大地震の発生が危惧されています。また、新型コロナウイルスは今年5月から「5類感染症」に移行する見込みですが、ウイルスは変異を繰り返していますので、安心は禁物であるといえます。

当センターでは、このような厳しい現実に対峙し、宇部市のような地方都市における防災・減災、医療介護、公衆衛生などの問題を解決し、将来を見据えた持続可能な都市社会モデル「新・宇部方式」を提案することとしております。現在、学内から29名の研究者が参画し、自然災害、リスクマネジメント、保健衛生、環境・防災教育、国際防災及び海洋・気象の6つの部門において自然災害と感染症に対して社会を強くする国内初の研究センターを目指して活動しています。

本報告書は2022年4月から2023年3月までのセンター及び構成メンバーの活動成果をまとめたものです。ご高覧いただき、興味がありましたらセンター事務局にご連絡ください。

なお、翌2023年度に、当センターは「環境DNA研究センター」、「グローバル環境防災学研究会」と統合した新センターとして再スタートする予定ですが、引き続き、学外の研究者を招いた講演会やシンポジウム、テーマを定めたセミナーなどの行事を企画してまいります。ご関心のある方はご参加いただけますと幸いです。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

2023年4月吉日

地域防災・減災センター長

鈴木 素之



地域防災・減災センター 2022 年度 年次報告

目次

はじめに

1. センターの構成	3
1-1. センターメンバー	3
1-2. 部門メンバー	7
2. 全体活動報告	8
2-1. 概要	8
2-2. 活動報告	8
2-2-1. 講演会	8
2-2-2. セミナー	9
2-2-4. 国際セミナー・シンポジウム	9
2-2-5. 地域・社会貢献活動	10
2-2-6. 他団体との連携	11
2-2-7. 広報	12
2-3. 会計報告	13
3. 部門活動報告	14
3-1. 研究成果概要	14
4. 個人活動報告	17
A. 学術雑誌等	17
B. 国際会議における発表	22
C. 国内学会・シンポジウム等における発表	25
D. 学会運営等	29
E. 報道関係	34
F. 国際交流：外国人の受け入れ状況	36
G. 表彰・評価関係	36
H. 獲得研究費	36

あとがき

1. センターの構成

1-1. センターメンバー

2023年3月31日現在、表1に示すように幅広い分野から29名がメンバーとなっている。2022年度から学外研究員が新たに加わった。

表1 地域防災・減災センターメンバー（2023年3月31日現在）

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
【センター長】			
鈴木 素之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	時間防災学 博士（工学）	【自然災害部門】部門長 & 【国際防災部門】 水・土砂災害、斜面災害、 時間防災学
【副センター長】			
牛尾 裕子	山口大学大学院医学系研究科 地域看護学分野・教授	公衆衛生看護学 地域看護学 博士（看護学）	【保健衛生部門】部門長 & 【環境・防災教育部門】 災害時保健衛生
榊原 弘之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	地域計画学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】部門長 減災まちづくり、緊急災害調査
【構成員】			
赤松 良久	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	環境水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【海洋・気象部門】 & 【リスクマネジメント部門】 水・土砂災害、ウイルス
朝位 孝二	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
足立 亮介	山口大学大学院創成科学研究科 電気電子情報系専攻・助教	制御理論 博士（情報科学）	【リスクマネジメント部門】 & 【自然災害部門】 ウイルス

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
網木 政江	山口大学大学院医学系研究科 基礎看護学分野・講師	災害看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
鵜 心治	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	建築学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】 減災まちづくり
大澤 高浩	山口大学大学研究推進機構 先端科学イノベーション研究センター・教授	リモートセンシング工学 博士（工学）	【海洋・気象部門】 部門長 & 【国際防災部門】 & 【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 海洋気象
太田 岳洋	山口大学大学院創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻・教授	応用地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 災害地質学、緊急災害調査
緒方 彩乃	山口大学大学院医学系研究科 地域看護学分野・講師	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
楮原 京子	山口大学教育学部・准教授	自然地理学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【リスクマネジメント部門】 時間防災学
斎藤 美矢子	山口大学大学院医学系研究科 地域看護学分野・講師	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
坂口 敦	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・助教	農業土木（土壌物理学） 博士（農学）	【国際防災部門】 干ばつ害、水災害
鈴木 賢士	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・教授	気象学 博士（理学）	【海洋・気象部門】 気象学、雲物理学
高橋 征仁	山口大学人文学部・教授	社会心理学 文学修士	【環境・防災教育部門】 部門長 防災心理学
辻 智大	山口大学大学院創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻・助教	地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 災害地質学

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
鶴田 良介	山口大学大学院医学系研究科 先進救急医療センター・教授（センター長）	救急医療 博士（医学）	【保健衛生部門】& 【リスクマネジメント部門】 災害医療、災害時保健衛生
中正 和久	山口大学大学院創成科学研究科 電気電子情報系専攻・准教授	情報工学 博士（工学）	【保健衛生部門】& 【自然災害部門】 ヘルスケアシステム
樋口 隆哉	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	環境衛生工学 博士（工学）	【保健衛生部門】 環境質評価、衛生環境
村上 祐里香	山口大学大学院医学系研究科 地域看護学分野・助手	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
森 啓年	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
森下 徹	山口大学教育学部・教授	歴史学 博士（文学）	【自然災害部門】 防災授業
山本 浩一	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	環境工学 博士（工学）	【国際防災部門】部門長 & 【自然災害部門】& 【海洋・気象部門】& 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害
山本 晴彦	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・教授	環境防災学 博士（農学）	【自然災害部門】& 【環境・防災教育部門】 風水害、防災学習、避難計画
吉本 憲正	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】& 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害
渡邊 学歩	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地震防災・耐震工学 博士（工学）	【自然災害部門】 地震防災・橋梁耐震・豪雨災害
【学外研究員】			
白水 元	東海大学建築都市学部 土木工学科・特任助教	海岸工学 博士（工学）	【自然災害部門】& 【環境・防災教育部門】& 【国

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
			【防災部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
【事務局】			
山本 裕子	山口大学大学院創成科学研究科 学術研究員	環境工学 博士（工学）	衛生環境

【構成員】50 音順

1-2. 部門メンバー

地域防災・減災センター設立当初からの自然災害部門、リスクマネジメント部門、環境・防災教育部門、保健衛生部門の4部門と、増設された国際防災部門、海洋・気象部門のあわせて6部門からなる。各部門のメンバーを表2に示す。

表2 地域防災・減災センター部門メンバー（2023年3月31日現在）

自然災害部門 16名	リスクマネジメント部門 6名	環境・防災教育部門 9名	保健衛生部門 8名	国際防災部門 5名	海洋・気象部門 4名
【部門長】 鈴木 素之 【構成員】 赤松 良久 朝位 孝二 足立 亮介 大澤 高浩 太田 岳洋 楳原 京子 白水 元 辻 智大 中正 和久 森 啓年 森下 徹 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正 渡邊 学歩	【部門長】 榊原 弘之 【構成員】 赤松 良久 足立 亮介 鵜 心治 楳原 京子 鶴田 良介	【部門長】 高橋 征仁 【構成員】 朝位 孝二 牛尾 裕子 大澤 高浩 太田 岳洋 白水 元 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正	【部門長】 牛尾 裕子 【構成員】 網木 政江 緒方 彩乃 斎藤 美矢子 鶴田 良介 中正 和久 樋口 隆哉 村上 祐里香	【部門長】 山本 浩一 【構成員】 大澤 高浩 坂口 敦 白水 元 鈴木 素之	【部門長】 大澤 高浩 【構成員】 赤松 良久 鈴木 賢士 山本 浩一

【構成員】50音順

2. 全体活動報告

2-1. 概要

地域防災・減災センターでは 2022 年度に国内向けの講演会 3 回、セミナー1 回、研修会 4 回、国際セミナー・シンポジウム 3 回開催し、合計 1,605 名が参加した。詳細を 2-2 に示す。また会計報告を 2-3 に示す。

2-2. 活動報告

2-2-1. 講演会

最新の防災・減災の知識を広く一般に提供することを目的として、防災・減災に関わる様々な分野の専門家を講師に招いて行う地域防災・減災センター「防災・減災講演会」シリーズ昨年に引き続き開催した（グローバル環境・防災学研究会と共催）。2022 年度は表 3 に示すとおり幅広い分野の専門家による講演会を 3 回開催し、民間企業、大学、その他一般から合計 803 名が参加した。なお、本講演会は公益社団法人土木学会認定 CPD（継続教育）プログラムとなっており、希望する受講者には単位認定の受講証明書を発行し、技術者の継続教育にも貢献した。

表 3 2022 年度「防災・減災講演会」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第 6 回	2022 年 6 月 29 日 15:00-16:30 Web 開催（Zoom ウェビナー）	講師：牛山 素行 氏（静岡大学防災総合センター） 演題：洪水・土砂災害は 起こりうるものが・起こり うるところで https://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2022/t202207111.html	354 名
第 7 回	2023 年 1 月 23 日 15:30-17:00 常盤キャンパス社 建会議室での講演 を Web 配信 （Zoom ウェビナ ー）	講師：酒井 直樹 氏（国立研究開発法人防災科学技 術研究所 水・土砂防災研究部門 総括主任研究員、先 端的研究施設利活用センター 副センター長） 演題：レジリエントな社会を支える先端的研究施設の 利活用 https://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2022/t202302281.html	236 名（内 対面 8 名）
第 8 回	2023 年 3 月 14 日 15:30-17:00 常盤キャンパス社 建会議室での講演 を Web 配信 （Zoom ウェビナ ー）	講師：平田 富士男 氏（兵庫県立大学大学院緑環境 景観マネジメント研究科教授、（兼）同 地域創造機 構 地域連携教育研究センター長、（兼）兵庫県立淡路 景観園芸学校教員） 演題：復興まちづくりと教育機関の役割ー阪神・淡路 大震災と東日本大震災の復興まちづくりからー https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/1486/index.html	213 名（内 対面 6 名）

2-2-2. セミナー

2020 年度、2021 年度に引き続き、表 4 に示すとおり「時間防災学※セミナー」を 1 回開催し、民間企業、大学、その他一般から 324 名が参加した（グローバル環境・防災学研究会と共催）。本セミナーは防災・減災講演会と同様、土木学会認定 CPD プログラムとなっている。

※時間防災学とは

本学が掲げる「時間学」と「防災学」を融合し、100～1000 年の時間スケールで災害の起こり方と防災のあり方を考究する学術領域。工学、理学だけでなく歴史学、考古学、地理学、社会学、経済学、農学、医学など様々な分野の研究者を集め、文理融合した新しい防災研究領域として開拓していくことを目指している。

表 4 2022 年度「時間防災学セミナー」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第 5 回	2022 年 6 月 1 日 16:00-17:00 Web 開催 (Zoom ウェビナー)	講師：西山 浩司 氏 (九州大学大学院工学研究院 環境社会部門 助教) 演題：災害伝承から防災へー地域に残る災害伝承を 現代に蘇らせ、繰り返し起こる土石流災害に備える ー https://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2022/t202206081.html	324 名

2-2-4. 国際セミナー・シンポジウム

2021 年度に引き続き、英国ロンドン大学 (UCL) と共同で YU-UCL シンポジウムを開催した。英国と日本を中心に 47 名が参加した。また国際的な防災・減災、環境問題に取り組む国内外の専門家を招いて昨年度からシリーズで開催している国際防災・環境セミナーを 2 回開催した（グローバル環境・防災学研究会と共催）。表 5 に示すとおり、合計 313 名が国内外から参加した。

■ YU-UCL シンポジウム ”Earth Observations for Disaster Prevention”

https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport_eng.html

実施日時・場所：2023 年 3 月 3 日 18:00-20:00 Web 開催 (Zoom ミーティング)

共催：Institute for Risk and Disaster Reduction (IRDR), University College London (UCL)、応用衛星リモートセンシング研究センター

参加者数：47 名

講演者および演題：

1. Gareth Byatt, Independent Consultant in Risk and Resilience and Ilan Kelman, University College London, UK
“Disasters Avoided – Earth Observations and the Greater Whole”
2. Kenji Suzuki, Yamaguchi University, Japan
“Observational Study on Precipitation Mechanisms by Particle Imaging Radiosonde”
3. Victoria Pratt, Invisible Flock, UK
“Micro Observations Over Time, Ways of Seeing with Community Knowledge Holders”

4. Kenji Imaoka, Yamaguchi University, Japan
“Various Means for Space-Based Monitoring of Atmospheric Water Vapour”
5. Saman Ghaffarian, University College London, UK
“Post-Disaster Damage and Recovery Monitoring using Remote Sensing”
6. Tsuyoshi Eguchi, Yamaguchi University, Japan
“Development of the Method to Detect Landslide Areas using Single Optical Sensor Imagery”

表 5 2022 年度「国際防災・環境セミナー」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第 3 回	2022 年 12 月 26 日 14:30-16:00 常盤キャンパス社 建会議室での講演 を Web 配信 (Zoom ウェビナー)	講師：桑江 朝比呂 氏 (ジャパンプルーエコノミ ー技術研究組合 理事長) 演題：世界と日本のブルーカーボンの最前線 https://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2022/t202302031.html	261 名 (内 対面 21 名)
第 4 回	2023 年 3 月 2 日 17:00-18:00 常盤キャンパス D21 講義室での講演を Web 配信 (Zoom ウ ェビナー)	講師：Prof. David Alexander, University College London (UCL), UK 演題：Managing Today's Complex Crises: Lessons From the Past https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/1493/index.html https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/en/info/276/index.html	52 名 (内 対面 15 名)

2-2-5. 地域・社会貢献活動

研究とあわせて地域・社会貢献活動の一環として、以下のとおりまちの減災ナース育成研修を行った。その他、メンバーが災害発生時などに調査を行うとともに、自治体などに助言を行っている。

■ 宇部市藤山・鵜の島・新川地区まちの減災ナース育成研修

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport.html>

2022 年 7 月 10 日、8 月 20 日、10 月 1 日、10 月 29 日、保健衛生部門が主催となり（主催：山口大学地域防災・減災センター、共催：宇部市）、昨年度の下関市に続き宇部市においても「まちの減災ナース」育成研修会を実施した。研修会の詳細は表 6 に示す。4 回の研修を経て、宇部市において初めての「まちの減災ナース」14 名が誕生した。

表6 「宇部市藤山・鶴の島・新川地区まちの減災ナース育成研修」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第1回	2022年7月10日 9:30-12:00 Zoom ミーティング	1) まちの減災ナースとその役割（山口大学 網木政江講師） 2) 災害医療・看護の基礎知識（山口大学 網木政江講師）	27名
第2回	2022年8月20日 9:30-12:00 宇部市新川ふれあいセンター、Web 同時配信（Zoom ミーティング）	1) 宇部市の地域特性と防災の取り組み（宇部市総務部防災危機管理課 重富暁夫氏） 2) 水害時における高齢者の避難行動支援（山口大学地域防災・減災センター副センター長、山口大学大学院創成科学研究科 榊原弘之 教授）	27名
第3回	2022年10月1日 10:00-16:00 宇部市総合福祉会館	1) 課題発表：私たちが生活する地区の防災・減災活動の現状と課題（受講生） 2) 宇部市における要配慮者の対応と課題（宇部市健康福祉部地域福祉課 杉山孝博課長） 3) ミニシンポジウム：藤山・鶴の島・新川地区の防災・減災への取り組み（3地区自主防災会他代表者、中部第2地域包括支援センター、宇部市地域・保健福祉支援チーム）	28名
第4回	2022年10月29日 10:00-16:00 宇部市新川ふれあいセンター	1) 新型コロナウイルス等の感染症に配慮した避難所運営（宇部市健康福祉部地域福祉課 江本絹世主幹） 2) 災害ボランティアセンターの運営（宇部市社会福祉協議会地域福祉課 山田芳徳氏） 3) グループワーク：地区の防災・減災に関する課題とまちの減災ナースとしての今後の取り組み（受講生）	36名

2-2-6. 他団体との連携

グローバル環境・防災学研究会がオンライン開催する2022年9月6日のシンポジウム「建設DXの最前線」を共催した（参加者人数437名）。また、自然災害研究協議会中国地区部会の研究発表会を以下のとおり共催した。

■ 自然災害研究協議会中国地区部会

自然災害研究協議会中国地区部会がオンライン開催する2022年12月27日の第9回自然災害研究協議会中国地区部会研究発表会を共催した（参加者人数132名）。また事務局として研究発表会の運営業務および研究論文集の作成を行った。研究発表会では大学、企業から多岐の内容に

わたる 15 件の一般発表とともに、山口大学大学院創成科学研究科教授の山本晴彦氏による特別講演「わが国で発生する風水害の特徴－32 年間（1991～2022 年）の現地調査とデータ解析を基礎として－」が行われた。なお、研究論文集は下記 URL から閲覧できる。

https://yamaharu-nds.jp/ndic_chugoku/

2-2-7. 広報

2021 年度に引き続き、地域防災・減災センターのホームページ、Facebook にてイベントの広報や報告などを行った。

日本語 HP : <https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index.html>

英語 HP : https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index_eng.html

Facebook : <https://www.facebook.com/Yamaguchi.Univ.CLDPM>

2-3. 会計報告

センターの 2022 年度の収入および支出を以下に示す。

費目	内訳	金額	備考
<u>収入</u>			
運営交付金		6,000,000	
収入総額：		6,000,000	
<u>支出</u>			
設備備品費	デスクトップ PC 一式	186,507	
消耗品費	ドローン関連物品一式	626,670	
	浸透流計算用ソフトウェア	487,872	
	ポータブル GPS	69,800	
	360 度カメラ	63,300	
	PC 周辺機器、ソフトウェア、プリンター消耗品、ハイブリッド講演会用機器、記憶媒体、書籍・DVD、文具、事務用品	699,325	
人件費	学術研究員	2,908,117	1 名、2022/4/1～2023/3/31
謝金	講師謝金	249,000	10 名
	学生謝金	50,063	3 名
	研究協力謝礼	13,860	
旅費	講師旅費	181,000	3 名
	出張旅費	228	1 名
通信費	郵便料金	27,896	
諸経費	GNSS 補正情報受信サービス料	198,000	
	ドローン関連費用	102,110	
	Zoom ウェビナーオプション 500	83,952	
	土木学会 CPD プログラム認定料	30,000	5 回×6,000 円
	建設系プログラムサイト掲載料	15,000	5 回×3,000 円
会議費	会議飲食費	7,300	講演会講師弁当・お茶代
支出総額：		6,000,000	
収入－支出（差引残高）：		0	

3. 部門活動報告

3-1. 研究成果概要

1) 被災ポテンシャルの歴史的変遷の把握（自然災害部門）

2022 年度は、山口県防府市富海地区、広島県広島市東区、東広島市黒瀬町、秋田県大仙市雄物川流域で、現地調査、露頭観察・サンプリング、放射性炭素年代測定、土粒子の密度試験、土の粒度試験、文献調査等を実施した。その結果、過去の土石流堆積物層や洪水履歴を示す層状の痕跡を認めることができた。得られたデータは各地の土石流および洪水発生年表に追加・整理し、近世の古文書など歴史アーカイブの災害記述と照合し、災害記録との整合性を確認した。今回の調査結果を既往の調査結果と比較することで、異なる地質帯による土石流発生頻度の違い等について明らかにした。次の土石流発生の切迫度を算定することを目的として、土石流堆積物の層厚と堆積年代の関係から土砂堆積速度を算出することを試みた。

また、これまでに蓄積した山口県内における数値標高モデルデータとその地形解析結果に基づき、各地形量と地質との関係や 2009 年 7 月山口・九州北部豪雨で土砂・洪水氾濫が発生した防府市佐波川流域および 2018 年 7 月豪雨で表層崩壊が多発した周南市島田川流域の地形条件を整理し、谷密度等の地形指標を用いて、稀な豪雨に伴う土砂・洪水氾濫の発生可能性のあるメッシュを抽出するフローを試案した。

さらに、考古学分野では津波・地震・噴火による被害事例の調査研究は進んでいるものの、土砂災害に関しては研究事例がまだ少ない。そのため、2022 年度は先史社会、特に縄文時代の土砂災害の事例について資料収集を進めた。また、防府市の中世の遺跡分布と土砂災害危険箇所との位置関係について、地形解析結果をもとに防災学、歴史学、考古学的の視点から考察し論文発表を行った。

2) デマンド交通を活用した災害時避難支援の実現に向けた課題検討（リスクマネジメント部門）

災害時の人的被害を軽減するためには、住民の避難の実行が重要である。早期避難の実行には近隣からの声かけも有効であるとされる。一方、近年ではドアトゥドアのデマンド交通が各地で普及しつつある。前年度の調査ではデマンド交通による災害時避難支援の利用に関するアンケート調査を実施し、声かけと同様に、デマンド交通の活用が早期避難の促進に有効な可能性が示された。本年度は、避難支援を実現するための課題について検討した。

具体的な調査検討内容は以下のとおりである。

- 前年度実施した調査データの精査
- 行政による避難行動要支援者に対する支援の実態についてのヒアリング（宇部市、山陽小野田市対象）
- 運輸行政の立場からの実現に向けた課題についてのヒアリング（山口運輸支局対象）
- 高潮リスクの高い地域における避難支援を必要とする人口規模の推定

以上の調査検討を踏まえて、具体的な災害時避難支援の枠組みを提案した。まず在宅の地域住民を、①障害者認定対象、②介護保険認定対象、③その他の高齢者、④その他 65 歳未満の 4 つの

グループに分類する。デマンド交通による避難支援対象として想定されるのはまず、

A：①障害者認定対象及び②介護保険認定対象のうち公共交通の利用が可能な人々

B：③その他の高齢者のうち運動能力得点が比較的高い人々

であり、次いで

C：③その他の高齢者で運動能力得点が比較的低い者のうち避難支援の利用を希望する人々

D：④その他 65 歳未満のうち避難支援の利用を希望する人々

であると考えられる。積極的に避難支援の利用を促す立場からは、A 及び B に該当する人々に日常時にデマンド交通への事前登録を呼びかけ、災害時の避難の声かけにつなげることも考えられる。以上を図-1 に示す。

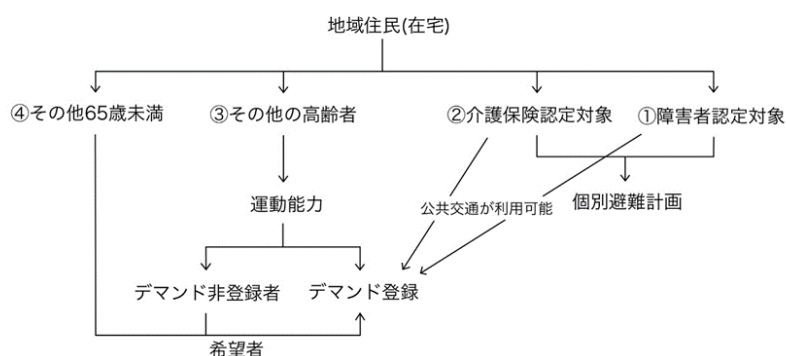


図 1 避難支援の枠組み

3)「まちの減災ナース育成研修」による地区防災福祉コミュニティづくりの支援とモデル開発 (保健衛生部門&リスクマネジメント部門)

2021 年度に開始した「水害などを想定した防災モデル（地区防災福祉コミュニティ形成モデル）開発プロジェクト」に継続して取り組んだ。自助・共助を基盤とする地区防災福祉コミュニティの形成を目指し、宇部市内の隣接する 3 小学校区（藤山・鶉の島・新川地区）で、地区コミュニティとの協働による「まちの減災ナース育成研修」を試行的に実施し、安全・安心のコミュニティづくりの支援を行った。

藤山・鶉の島・新川地区に在住または在勤する看護職を対象とした「まちの減災ナース育成研修」は、2022 年 1 月末に開講予定だったがコロナ感染第 6 波のため延期し、7～10 月に 4 回コースで実施した。研修では、医療・介護施設利用者の避難支援に関する研究成果をもとに「水害時における高齢者の避難行動支援」の講義を取り入れた。また、研修の一環で行ったミニシンポジウムでは、地区防災関係者にシンポジストや聴講者として参加してもらい、各地区の防災の取り組みや課題に関する意見交換を行った。この研修で、宇部市に 14 名のまちの減災ナースが誕生した。

この研究プロジェクトでは、EBI（Evidence-Based Intervention 根拠のある取り組み）を現場に根付かせる戦略を明らかにする研究のフレームワーク（Consolidated Framework for Implementation Research：CFIR）を用いた分析を行っている。本プロジェクトにおける EBI は災害対策基本法による共助推進を理念とする「地区防災計画制度」、実装戦略を自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」の企画実施とし、研修受講者へのアンケートや地区ステークホル

ダーへのインタビューを実施し、実装アウトカムと関係する要因を検討した。この結果を踏まえ、2023年度は戦略を精錬し、同市内他地区でまちの減災ナース育成研修を実施する予定である。これらより、他地区へ広く普及できる防災福祉コミュニティ形成モデルの開発を目指している。

4) 防災に携わる海外研究者とのネットワークの継続（国際防災部門）

昨年度に引き続き、英国ロンドン大学（UCL）の Institute for Risk and Disaster Reduction（リスク&防災研究所）と共同で YU-UCL シンポジウムを開催しており、今後もシンポジウム開催を中心に防災に関する情報交換を継続予定である。また、国際的な防災・減災、環境問題に取り組む国内外の専門家を招いた国際防災・環境セミナーを2回開催した（詳細は2-2-4参照）。

JSPS 二国間交流事業共同研究において、インドネシア・リアウ大学と共同で「泥炭地堆積物の輸送力学の確立」に関する研究を行っており、インドネシア泥炭地の海岸浸食のメカニズムの解明に取り組んでいる。2022年度は、7月と8月にリアウ大学の研究者とともにインドネシア・ブンカリス島の泥炭地海岸に形成されたラグーン地形において、ラグーンの形成過程に関する共同調査を行った。またブンカリス高専では共同研究のワークショップを開催した。2023年1月にはリアウ大学、ブンカリス高専等の共同研究者6名を日本に招へいし共同研究の議論を進めた。また、泥炭地災害における現地向けのワークショップを開催し、インドネシア・ブンカリス県の担当者含め79名の参加を得た。さらに大型研究予算獲得に向けてインドネシア、日本双方で努力することを確認した。

2023年3月には部門長の山本浩一が水環境学会から国際ワークショップを開催するための助成金（JSWE-IDEA 国際活動賞）を獲得したため、これを用いてアイルランドから研究者を招へいし2023年9月に泥炭地災害に関するオンライン国際ワークショップを開催する予定である。

4. 個人活動報告

メンバーの活動について、A. 学術雑誌等、B. 国際会議における発表、C. 国内学会・シンポジウム等における発表、D. 学会運営等、E. 報道関係、F. 表彰・評価関係、G. 獲得研究費に分けて以下に示す。なお、A～Cについては主要なものを抜粋して掲載している。

A. 学術雑誌等

著者名、発表論文名、学会誌名、発表年月巻号等	査読
鈴木 素之	
鈴木素之, 楮原京子, 松木宏彰, 川島尚宗. 変成岩分布域の土砂災害リスクとその地形的特徴—山口県防府市富海地区を例として—. 地盤と建設. 40(1), 121-129, 2023 年 1 月.	有
藤井公博, 鈴木素之, 近藤政弘, 小島謙一. パイルスラブ式盛土におけるジオテキスタイル土のう模型に対する振動台実験. 地盤と建設. 40(1), 35-42, 2023 年 1 月.	有
鈴木素之, 吉川修一. 未曾有の豪雨により複合化した土砂・水災害への地盤工学の対応. 地盤工学会誌. 70(11), 16-16, 2022 年 11 月.	
牛尾 裕子	
高田大樹, 牛尾裕子, 稲垣真梨奈, 宮本純子, 水川真理子, 藤田さやか, 増野園恵. COVID-19 感染者が救われたと感じた言葉掛けやサポート 軽症者等療養施設入所中の療養者への調査から. 地域保健. 53(6), 56-59, 2022 年 11 月.	
後藤奈穂, 牛尾裕子, 守田孝恵. 医療的ケア児に対する保健師活動—個別事例への保健所保健師の支援に焦点をあてて—. 山口医学. 71(2+3), 65-74, 2022 年 8 月.	有
平井一志, 榊原弘之, 神谷大介, 赤松良久, 斎藤美矢子, 牛尾裕子. デマンド交通を活用した災害時の避難促進の可能性に関する研究. 土木計画学研究・講演集. 65, 1-8, 2022 年 6 月.	
榊原 弘之	
Faizul Chasanah, Hiroyuki Sakakibara. Implication of Mutual Assistance Evacuation Model to Reduce the Volcanic Risk for Vulnerable Society: Insight from Mount Merapi, Indonesia. Sustainability. 14(13), 8110-8110, 2022 年 7 月.	有
平井一志, 榊原弘之, 神谷大介, 赤松良久, 斎藤美矢子, 牛尾裕子. デマンド交通を活用した災害時の避難促進の可能性に関する研究. 土木計画学研究・講演集. 65, 1-8, 2022 年 6 月.	
榊原弘之, 高木将志. 地方大学における学生のまちづくり参加意識の形成要因に関する研究—大学所在地域に関する学習経験に着目して—. 都市計画論文集. 57(1), 90-97, 2022 年 4 月.	有

赤松 良久	
Nozomu ONAKA, <u>Yoshihisa AKAMATSU</u> , Akihiko KOYAMA, Ryutei INUI, Minoru SAITO, Shingo MABU. DEVELOPMENT OF A SEDIMENT PARTICLE SIZE PREDICTION METHOD FOR TIDAL FLAT BASED ON IMAGE ANALYSIS USING DEEP LEARNING. Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering). 78(2), I_1117-I_1122, 2023 年 1 月.	有
<u>Yoshihisa Akamatsu</u> , Ryohei Nakao, Hiromu Motozawa, Koji Furukawa, Yoshihisa Kurita. Application of a quantitative PCR method for monitoring of geosmin-producing Anabaena spp. in a Japanese reservoir. Landscape and Ecological Engineering. 19, 87-93, 2022 年 12 月.	有
<u>赤松良久</u> , 中尾遼平, 横山良太, 太田宗宏, 乾隆帝. 環境 DNA 定量メタバーコーディングを用いた九州北部豪雨直後の筑後川の魚類相調査～回復過程のモニタリングに向けて～. 河川技術論文集. 28, 157-162, 2022 年 6 月.	有
朝位 孝二	
渡辺勝利, 三戸裕矢, 宇根拓孝, <u>朝位孝二</u> . 直線開水路隅角部の円形化に伴う流れ構造の特徴. 可視化情報学会論文集, 42(12), 1-8, 2022 年 12 月.	有
Yasushi Iseri, Aimin Hao, Tomokazu Haraguchi, Tetsuya Oishi, Takahiro Kuba, <u>Koji Asai</u> , Sohei Kobayashi. Improvement of Water Quality by Light-Emitting Diode Illumination at the Bottom of a Field Experimental Pond. Water. 14(15), 2310-2310, 2022 年 7 月.	有
足立 亮介	
<u>Ryosuke Adachi</u> , Yuji Wakasa. Design of Inputs Without Data Informativity for Secure Model Predictive Control. 2023 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII), 1019-1022, 2023 年 1 月.	有
<u>Ryosuke Adachi</u> , Yuji Wakasa. Distributed Filter Using ADMM for Optimal Estimation Over Wireless Sensor Network. IEICE TRANSACTIONS ON FUNDAMENTALS OF ELECTRONICS COMMUNICATIONS AND COMPUTER SCIENCES. E105A(11), 1458-1465, 2022 年 11 月.	有
Eiji Masuda, Yuji Wakasa, <u>Ryosuke Adachi</u> . Modified Lipschitz optimization and its application to maximum power point tracking control for photovoltaic systems. IEEJ Trans. Electrical and Electronic Engineering. 17(6), 816-822, 2022 年 6 月.	有
鷗 心治	
吉田雪乃, <u>鷗心治</u> , 小林剛士, 白石レイ. 県境を跨いだ広域都市圏における集約型都市構造の計画策定支援手法に関する研究. 日本建築学会計画系論文集. 第 87 巻(第 797 号), 1196-1207, 2022 年 7 月.	有
萩原綾, <u>鷗心治</u> , 小林剛士, 白石レイ. 駅と医療施設の一体的整備手法 の特徴と効果に関する一考察. 日本建築学会技術報告集. 28(69), 900-905, 2022 年 6 月.	有

大澤 高浩	
I Putu Dedy Pratama, <u>Takahiro Osawa</u> , Abd Rahman As-Syakur. Identification of Fault Zone in Bali Using GGMPlus Gravity and Alos-2 Palsar-2 Data. JURNAL GEOGRAFI, 15(1), 2023 年 1 月.	有
Seiya Maki, Minoru Fujii, Tsuyoshi Fujita, Yasushi Shiraishi, Shuichi Ashina, Kei Gomi, Lu Sun, Sudarmanto Budi Nugroho, Ryoko Nakano, <u>Takahiro Osawa</u> , Gito Immanuel, Rizaldi Boer. A deep reinforced learning spatiotemporal energy demand estimation system using deep learning and electricity demand monitoring data. Applied Energy. 324, 119652-119652, 2022 年 10 月.	
太田 岳洋	
<u>太田岳洋</u> , 高吉菜々, 川上千尋, 井上颯太. 山口県阿武町奈古におけるトラバーチンの発見とその意義. 山口地学会誌. 84, 5-10, 2022 年 10 月.	
<u>Takehiro Ohta</u> , Takatoshi Ito, Masahiko Osada. Rock Mechanics and Engineering Geology in Volcanic Fields. CRC Press/Balkema. 2023 年 1 月. (ISBN: 9781032276571)	有
緒方（木嶋） 彩乃	
篠原彩, 影山隆之, 荒木章裕, 福田広美, 品川佳満, 堀裕子, 永松いずみ, 佐藤愛, <u>木嶋彩乃</u> , 村嶋幸代. 地域在住高齢者と看護学生による世代間オンライン交流会の試み. 老年社会科学. 44(4), 359-368, 2023 年 1 月.	有
鎌田久美子, 村嶋幸代, <u>木嶋彩乃</u> . 地域包括ケアシステムの構築に向けた都道府県本庁と保健所による取り組み・1 保健医療福祉連携システムの構築方法の解明と連携モデルの提案. 保健師ジャーナル. 78(3), 2022 年 6 月.	
楳原 京子	
鈴木素之, <u>楳原京子</u> , 松木宏彰, 川島尚宗. 変成岩分布域の土砂災害リスクとその地形的特徴—山口県防府市富海地区を例として—. 地盤と建設. 40(1), 121-129, 2023 年 1 月.	有
Nobuhiko Sugito, Hideaki Goto, Yasuhiro Kumahara, Hiroyuki Tsutsumi, Takashi Nakata, <u>Kyoko Kagohara</u> , Nobuhisa Matta, Mitsuhiro Watanabe. Surface Ruptures Accompanied with the Largest Foreshock. Kumahara, Y., Kaneda, H., Tsutsumi, H. eds. Surface Ruptures Associated with the 2016 Kumamoto Earthquake Sequence in Southwest Japan, 233-241, Springer, doi 10.1007/978-981-19-1150-7_18, 2022 年 7 月	
坂下晋, 岡田真介, 今井幹浩, 今泉俊文, 岡田篤正, 中村教博, 福地龍郎, <u>楳原京子</u> , 城森明, 戸田茂, 松多信尚, 山口寛, 松原由和, 山本正人, 外處仁. 横ずれ断層における各種物理探査の適用可能性の検討（その 2 ; S 波極浅層反射法探査および比抵抗 2 次元探査）—郷村断層帯および山田断層帯における事例—. 物理探査. 75, 1-20, 2022 年 5 月.	有

齋藤 美矢子	
平井一志, 榊原弘之, 神谷大介, 赤松良久, 齋藤美矢子, 牛尾裕子. デマンド交通を活用した災害時の避難促進の可能性に関する研究. 土木計画学研究・講演集. 65, 1-8, 2022 年 6 月.	
高橋 征仁	
Robin Goodwin, Masahito Takahashi. Anxiety, past trauma and changes in relationships in Japan during COVID-19. Journal of Psychiatric Research. 151, 377-381, 2022 年 7 月.	有
辻 智大	
Michiharu Ikeda, Kakda Kret, Takeshi Tsuji, Tatsunori Ikeda, Tomohiro Tsuji, Kozo Onishi, Naoki Nishizaka. Pore fabric anisotropy and elastic moduli of fault rocks from the Median Tectonic Line, Shikoku, southwest Japan. Tectonophysics. 834, 229366-229366, 2022 年 7 月.	有
Tatsuhiko Yamaguchi, Futoshi Nanayama, Toshimichi Nakanishi, Tomohiro Tsuji, Michiharu Ikeda, Yasuo Kondo, Michiko Miwa, Yohei Hamada. Middle Holocene relative sea-level changes and vertical tectonic crustal movements on Shikoku Island near the Nankai Trough, Japan. Island Arc. 31(1), 2022 年 6 月.	有
鶴田 良介	
Satoshi Gando, Atsushi Shiraishi, Takeshi Wada, Kazuma Yamakawa, Seitaro Fujishima, Daizoh Saitoh, Shigeki Kushimoto, Hiroshi Ogura, Toshikazu Abe, Toshihiko Mayumi, Junichi Sasaki, Joji Kotani, Naoshi Takeyama, Ryosuke Tsuruta, Kiyotsugu Takuma, Shin-Ichiro Shiraishi, Yasukazu Shiino, Taka-Aki Nakada, Kohji Okamoto, Yuichiro Sakamoto, Akiyoshi Hagiwara, Satoshi Fujimi, Yutaka Umemura, Yasuhiro Otomo. Effects of tranexamic acid on coagulofibrinolytic markers during the early stage of severe trauma: A propensity score-matched analysis. Medicine. 101(32), e29711, 2022 年 8 月.	
Takeshi Wada, Kazuma Yamakawa, Daijiro Kabata, Toshikazu Abe, Hiroshi Ogura, Atsushi Shiraishi, Daizoh Saitoh, Shigeki Kushimoto, Seitaro Fujishima, Toshihiko Mayumi, Toru Hifumi, Yasukazu Shiino, Taka-Aki Nakada, Takehiko Tarui, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Yutaka Umemura, Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Shin-Ichiro Shiraishi, Kiyotsugu Takuma, Ryosuke Tsuruta, Akiyoshi Hagiwara, Tomohiko Masuno, Naoshi Takeyama, Norio Yamashita, Hiroto Ikeda, Masashi Ueyama, Satoshi Fujimi, Satoshi Gando. Age-related differences in the survival benefit of the administration of antithrombin, recombinant human thrombomodulin, or their combination in sepsis. Scientific Reports. 12(1), 9304-9304, 2022 年 6 月.	有
中正 和久	
Nobuhiro Shimoi, Kazuhisa Nakasho, Carlos Cuadra. Sensor Characteristics Attributable to Base Plate Thickness of Piezo-Composite Sensors. International Journal of Mechanical Engineering and Applications. 10(5), 105-112, 2022 年 9 月.	有

Nobuhiro Shimoi, <u>Kazuhisa Nakasho</u> , Carlos Cuadra. Comparison of Sensor Output Because Base Plate Thickness and Shape Change of Piezoelectric Composite Sensor for Long-Term Measurement. American Journal of Science, Engineering and Technology. 7(3), 114-120, 2022 年 8 月.	有
下井信浩, <u>中正和久</u> . ピエゾモニタリングセンサの計測用ロボット (SALLY) の開発. 計測自動制御学会論文集. 58(4), 245-247, 2022 年 4 月.	有
樋口 隆哉	
Sativandi Riza, Masahiko Sekine, Ariyo Kanno, Koichi Yamamoto, Tsuyoshi Imai, <u>Takaya Higuchi</u> . Land suitability analysis for agricultural land use using hyperscale DEM data. Agrivita. 44(2), 187-198, 2022 年 5 月.	有
森 啓年	
SONG HAobo, 吉井幹, BAYANMUNKH, JARGALMAA, <u>森啓年</u> , 岡本順平, 瀬良良子, 関至. 河川護岸などからの吸い出しによる空洞・陥没発生過程に関する模型実験. 自然災害研究協議会中国地区部会研究論文集. 9, 33-36, 2022 年 12 月.	
森下 徹	
<u>森下徹</u> . 萩城下の民衆世界における女性. 国立歴史民俗博物館研究報告. 235, 281-295, 2022 年 9 月.	有
山本 浩一	
Sativandi Riza, Masahiko Sekine, Ariyo Kanno, <u>Koichi Yamamoto</u> , Tsuyoshi Imai, Takaya Higuchi. Land suitability analysis for agricultural land use using hyperscale DEM data. Agrivita. 44(2), 187-198, 2022 年 5 月.	有
山本 晴彦	
<u>山本晴彦</u> , 兼光直樹, 渡邊祐香, 坂本京子, 岩谷潔. 2020 年 7 月の梅雨前線豪雨による熊本県人吉市の洪水災害の特徴と土地利用の時空間的変遷. 時間学研究. 13, 21-59, 2022 年 12 月.	有
<u>山本晴彦</u> , 兼光直樹, 古場杏奈, 辻本ひかり, 縞居和哉, 坂本京子, 岩谷潔. 2021 年 8 月の秋雨前線豪雨により佐賀県の六角川で発生した洪水災害の被害調査. 自然災害科学. 41(2), 145-175, 2022 年 8 月.	有
<u>山本晴彦</u> , 辻本ひかり, 兼光直樹. 小城市池上地区における遊水地計整備に関する住民意識調査. 農業農村工学会誌. 90(6), 397-400, 2022 年 6 月.	有
吉本 憲正	
Xu, J, Xu, C, <u>Yoshimoto, N</u> , Hyodo, M, Kajiyama, S, Huang, L. Compression and Deformation Characteristics of Hydrate-Bearing Sediments under High Effective Confining Pressure. International Journal of Geomechanics. 22(6), 2022 年 6 月.	有
原弘行, 池田賢史, 弘中稔基, <u>吉本憲正</u> : 固化材量, 養生期間が異なるセメント処理土の海水環境下における一軸圧縮強さの変化, 土木学会論文集 B3(海洋開発), Vol.78, Issue 2, pp.I_601-I_606, 2022 年 10 月.	有

吉本憲正, 多岐涼太, 中下明文, 大本尚樹: 様々な自然土とクリンカアッシュ混合土の圧密排水条件下の力学特性, 第 15 回地盤改良シンポジウム論文集, pp.339-344, 2022 年 12 月.	有
渡邊 学歩	
Ichiro Ario, Tatsuya Yamashita, Ryota Tsubaki, Shin-ichi Kawamura, Tatsuhiko Uchida, <u>Gakuho Watanabe</u> , Akimasa Fujiwara. Investigation of Bridge Collapse Phenomena due to Heavy Rain Floods: Structural, Hydraulic, and Hydrological Analysis. Journal of Bridge Engineering. 27(9), 2022 年 9 月.	有

B. 国際会議における発表

著者名、発表論文名、学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等	査読
鈴木 素之	
Takano, S, <u>Suzuki, M</u> , Ishimaru, T, Komori. XRD patterns of turbidity in seepage water through two soil layers. GEOMATE 2022 Proc. of 12th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment, Bangkok, Thailand. 128-133, 2022 年 11 月.	有
<u>Suzuki, M</u> , Ishimaru, T, Wakamatsu, T. Suffusion characteristics of soils affected by seepage before and after shearing in triaxial test apparatus. Proc. of the 20th International Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering 2021. 2022 年 5 月.	有
牛尾 裕子	
Mina Ishimaru, Taichi Sato, <u>Yuko Ushio</u> , Seiko Iwase, Satoko Suzuki, Ayano Sakai, Satoko Isomura, Miyako Saito, Yurika Murakami. Caring Community Oriented Approach in the local community setting: A Scoping Review -. The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) Conference of 2022 (online). 2022 年 6 月.	
赤松 良久	
Hideaki Miyahira, Seiji Miyazono, <u>Yoshihisa Akamatsu</u> . Development of environmental DNA-based potential maps for invasive macrophyte Egeria densa in multiple riverine systems. ICLEE 2022. 2022 年 11 月.	
Seiji Miyazono, Takao Kodama, <u>Yoshihisa Akamatsu</u> , Ryohei Nakao, Takumi Hanaoka, Hideaki Miyahira. Use of environmental DNA for revealing habitat changes of hatchery-raised amphidromous fish in river tributaries before and after a massive flood event. Joint Aquatic Sciences Meeting 2022. Grand Rapids, Michigan, USA, 2022 年 5 月.	
朝位 孝二	
Hajime Shirozu, <u>Koji Asai</u> . Estimation of Inundation Area and Inundation Depth in Mabi Town, Okayama in 2018 Using Satellite SAR Data. Proceedings of the 39th IAHR World Congress. 6322-6328, 2022 年 6 月.	有
<u>Koji Asai</u> , Koji Nishiyama, Hajime Shirozu. Pattern Analysis of Meteorological Field causing Heavy Rainfall Disaster in Kyushu and Chugoku Region Japan Using Self Organizing Map. Proceedings of the 39th IAHR World Congress. 4812-4818, 2022 年 6 月.	有

足立 亮介	
Taisei Taguchi, <u>Ryosuke Adachi</u> , Yuji Wakasa. Resource allocation for epidemic spreading processes based on minimax strategy. Proceedings of the 2022 IEEE 11th Global Conference on Consumer Electronics. 579-580, 2022 年 10 月.	有
<u>Ryosuke Adachi</u> , Yuji Wakasa. On equivalence transformation of dynamical network systems for stability analysis. Proceedings of the SICE Annual Conference 2022. 1284-1246, 2022 年 9 月.	有
<u>Ryosuke Adachi</u> , Kohshiroh Matsunaga, Yuji Wakasa. On data-driven detection of attacks to cyber-physical systems. Proceedings of the 13th Asian Control Conference. 1820-1821, 2022 年 5 月.	有
網木 政江	
Asami Tado, Misae Ito, <u>Masae Amiki</u> , Kumi Yoshimura, Yukari Murakami. Current Status and Learning Needs of Continuing Education for Nurses in the Covid-19 Disaster. 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference. 2022 年 11 月.	有
大澤 高浩	
Badrul Huda Husain, <u>Takahiro Osawa</u> , Ali Hamdani. Application of Illegal Oil Bilge Dumping Monitoring Using Synthetic Aperture Radar Satellite Sentinel 1a Data and Automatic Identification System Broadcast Signals over Sunda Strait, Banten Province, Indonesia. PORSEC 2022: 15th Pan Ocean Remote Sensing Conference. 2022 年 12 月.	有
Chonnaniyah Chonnaniyah, <u>Takahiro Osawa</u> , I Wayan, Gede, Astawa Karang, Abd Rahman As-Syakur, Jose C B, da Silva. Effect of Internal Solitary Waves on Coastal Interaction in The Lombok Strait using Multi-satellite Data. PORSEC 2022: 15th Pan Ocean Remote Sensing Conference. 2022 年 12 月.	有
I Nyoman Sudi Parwata, <u>Takahiro Osawa</u> . Time-Series Ground Subsidence in Bali Before and During the Covid-19 Pandemic Monitored by PS-INSAR Method. IGARSS 2022 - 2022 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium. 2022 年 7 月.	
太田 岳洋	
<u>Takehiro Ohta</u> . Correlation among S-wave Velocity Structures, Physical Property Structures and Mineral Assemblages in Strong Weathered Andesite Rock Mass along under Constructing Road. INFRAMEET 2022. 2022 年 11 月.	
斎藤 美矢子	
Mina Ishimaru, Taichi Sato, Yuko Ushio, Seiko Iwase, Satoko Suzuki, Ayano Sakai, Satoko Isomura, <u>Miyako Saito</u> , Yurika Murakami. Caring Community Oriented Approach in the local community setting: A Scoping Review -. The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) Conference of 2022 (online). 2022 年 6 月.	

白水 元	
<u>Hajime Shirozu</u> , Koji Asai. Estimation of Inundation Area and Inundation Depth in Mabi Town, Okayama in 2018 Using Satellite SAR Data. Proceedings of the 39th IAHR World Congress. 6322-6328, 2022 年 6 月.	有
Koji Asai, Koji Nishiyama, <u>Hajime Shirozu</u> . Pattern Analysis of Meteorological Field causing Heavy Rainfall Disaster in Kyushu and Chugoku Region Japan Using Self Organizing Map. Proceedings of the 39th IAHR World Congress. 4812-4818, 2022 年 6 月.	有
鈴木 賢士	
<u>Shimizu, K.</u> , N. Nagahama, T. Sugidachi, K. Suzuki, M. Fujiwara. Development of a New Cloud/Precipitation Particle Imaging Radiosonde Using the 400-MHz Meteorological Band. The 2022 WMO Technical Conference on Meteorological and Environmental Instruments and Methods of Observation (TECO-2022). 2022 年 10 月.	
<u>Suzuki, K.</u> , K. Shimizu, T. Sugidachi, M. Fujiwara. Development of a method for measuring the fall velocity of precipitation particles using a new particle imaging radiosonde. The 2022 WMO Technical Conference on Meteorological and Environmental Instruments and Methods of Observation (TECO-2022). 2022 年 10 月.	
<u>Suzuki, K.</u> , T. Sugidachi, K. Shimizu, M. Fujiwara. Development of a new balloon-borne particle imaging sensor and terminal velocity measurement of precipitation particles in clouds. AOGS2022. 2022 年 8 月.	
高橋 征仁	
高橋征仁. 美男子平均顔の女性化と女性の配偶戦略の変化、そして自己家畜化. 2022 年度東アジア比較文化国際学術会議予稿集. 24-25, 2022 年 12 月.	
辻 智大	
Kent Osawa, <u>Tomohiro Tsuji</u> , Hyon-Son Ahn, Yuji Yamamoto. Does water enhance pyroclastic flow's travelling? -Multifaceted study on deposition temperature of Aso-4 pyroclastic flow, Japan-. Cities on Volcanoes 11 abstract, 2022 年 6 月.	
中正 和久	
Hideharu Furushima, Daichi Yamamichi, Seigo Shigenaka, <u>Kazuhisa Nakasho</u> , Katsumi Wasaki. An Integrated Web Platform for the Mizar Mathematical Library. 15th Conference on Intelligent Computer Mathematics (CICM 2022). 13467, 141-146, 2022 年 9 月.	有
Keiju Seki, <u>Kazuhisa Nakasho</u> , Cuadra Carlos, Nobuhiro Shimoi. Development of an IoT Device for Structural Health Monitoring. IEEE International Conference on Consumer Electronics - Taiwan (ICCE-TW 2022). 519-520, 2022 年 7 月.	有
Kenta Sawada, <u>Kazuhisa Nakasho</u> , Katsumi Wasaki, Nobuhiro Shimoi. Classification of Human Posture on Bed Using Machine Learning. IEEE International Conference on Consumer Electronics - Taiwan (ICCE-TW 2022). 547-548, 2022 年 7 月.	有

村上 祐里香	
Mina Ishimaru, Taichi Sato, Yuko Ushio, Seiko Iwase, Satoko Suzuki, Ayano Sakai, Satoko Isomura, Miyako Saito, <u>Yurika Murakami</u> . Caring Community Oriented Approach in the local community setting: A Scoping Review -. The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) Conference of 2022 (online). 2022 年 6 月.	
森 啓年	
<u>Hirotohi MORI</u> . Study on the process of river levee failures. TGS-JGS Joint Workshop in 2022. 2022 年 9 月.	
X. CHEN, Y. F. LEUNG, <u>H. MORI</u> , S. UCHIDA. Smoothed particle hydrodynamics method for fully coupled soil-water interactions. Proceedings of the 20th International Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering, Sydney 2021. 2022 年 5 月.	有
山本 晴彦	
Anna Koba, <u>Haruhiko Yamamoto</u> , Kenji Suzuki. Long-term trend of precipitation in Kagoshima prefecture based on digital integration of pre AMeDAS and AMeDAS data. International Symposium on Agricultural Meteorology 2023. 2023 年 3 月.	
吉本 憲正	
Nakashima, K., Hyodo, M., <u>Yoshimoto, N.</u> and Kajiyama, S.: Shear Creep Characteristics of Methane Hydrate-bearing Sands and Elastoviscoplastic Constitutive Model, Proceedings of the 20th International Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering, pp.4983-4988, 2022 年 5 月.	有

C. 国内学会・シンポジウム等における発表

著者名、発表論文名、学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等	査読
鈴木 素之	
小森朝陽, <u>鈴木素之</u> , 石丸太一, 高野翔太. 細粒分の粒径と塑性の違いが細粒分流出挙動に与える影響. 令和 4 年度第 77 回土木学会全国大会. 2022 年 9 月.	
藤井朗太, <u>鈴木素之</u> , 上鶴瀬一真. 動的載荷リングせん断試験における粘土の繰返しせん断特性. 第 61 回日本地すべり学会研究発表会. 2022 年 9 月.	
居石和昭, <u>鈴木素之</u> . 関門層群の崩壊素因と不撓乱試料の応力-ひずみの関係 (その 2) . 第 57 回地盤工学研究発表会. 2022 年 7 月.	
牛尾 裕子	
<u>牛尾裕子</u> , 石丸美奈, 斎藤美矢子, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 坂井文乃, 鈴木悟子, 村上祐里香. 認知症との共生を目指した地域づくり活動協働デザイナー活動成果によるケアリングコミュニティモデル検討ー. 日本地域看護学会第 25 回学術集会. 2022 年 8 月.	有
村上祐里香, <u>牛尾裕子</u> . 管理職保健師が捉える COVID-19 流行下の保健所に入職した新人保健師の成長. 日本地域看護学会第 25 回学術集会. 2022 年 8 月.	有

齋藤美矢子, <u>牛尾裕子</u> , 網木政江, 村上祐里香, 木嶋彩乃, 鶴田良介, 榊原弘之. まちの減災ナース育成研修を通じた地区防災福祉コミュニティ形成の試み（プロトコル）. D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第8回学術集会. 2022年7月.	
榊原 弘之	
齋藤美矢子, 牛尾裕子, 網木政江, 村上祐里香, 木嶋彩乃, 鶴田良介, <u>榊原弘之</u> . まちの減災ナース育成研修を通じた地区防災福祉コミュニティ形成の試み（プロトコル）. D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第8回学術集会. 2022年7月.	
平井一志, <u>榊原弘之</u> , 神谷大介, 赤松良久, 齋藤美矢子, 牛尾裕子. デマンド交通による災害時避難支援の可能性に関するアンケート調査. 土木学会中国支部研究発表会. 2022年5月.	
赤松 良久	
大中 臨, 江口 翔紀, <u>赤松 良久</u> . 光学衛星画像を用いた河道内の土地被覆分類法の検討. 土木学会全国大会第74回年次学術講演会. 2022年9月.	
福丸 大智, <u>赤松 良久</u> , 小林 勘太. 河川生態系モデルを用いた気候変動に伴う水温上昇が水生生物に及ぼす影響に関する検討. 日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会3学会合同大会. 2022年9月.	
<u>赤松 良久</u> , 宮園 誠二, 中尾 遼平, 平川 敬也, 今村 史子, 加藤 康弘. 環境DNA定量メタバーコーディング法を用いた流域網羅的な魚類多様性評価. 土木学会全国大会第74回年次学術講演会. 2022年9月.	
足立 亮介	
<u>足立亮介</u> , 若佐裕治. ネットワーク化SISモデルの重み付きグラフ表現に基づく最適ワクチン配置. 計測自動制御学会中国支部学術講演会. 2022年11月.	
<u>足立亮介</u> . 約40分でデータ駆動型解析と制御を理解したつもりになる. 2022年度電気学会北海道支部講演会「約半日で制御の基礎と先端を理解したつもりになる」. 2022年7月.	
<u>足立亮介</u> , 若佐裕治. データ駆動型システム表現を用いたサイバー攻撃解析に基づくセキュリティリソースの分配. 第66回システム制御情報学会研究発表講演会. 2022年5月.	
網木 政江	
村上由香里, <u>網木政江</u> , 田戸朝美, 伊東美佐江, 吉村久美. 山口県における看護職の継続教育の現状と課題. 山口県看護研究学会. 2023年3月.	有
<u>網木政江</u> . コロナ禍におけるまちの減災ナース育成の取り組み. 日本災害看護学会第24回年次大会. 2022年9月.	

齋藤美矢子, 牛尾裕子, <u>網木政江</u> , 村上祐里香, 木嶋彩乃, 鶴田良介, 榊原弘之. まちの減災ナース育成研修を通じた地区防災福祉コミュニティ形成の試み（プロトコル）. D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第8回学術集会. 2022年7月.	
太田 岳洋	
<u>太田岳洋</u> . 定量化地生態学的手法による斜面災害危険度評価手法の開発. 一般財団法人日本国土開発未来研究財団第2回学術研究助成研究成果発表会. 2022年11月.	有
黒木貴一, <u>太田岳洋</u> , 木山拓海. 平成30年7月豪雨の斜面崩壊と微地形－岩国地区を例に－. 日本応用地質学会中国四国支部令和4年度研究発表会. 2022年11月.	
<u>太田岳洋</u> , 久保佑佳, 川上千尋, 金子伸生. 多変量解析による羊蹄火山山麓地下水分類と水質形成モデルの推定. 日本応用地質学会令和4年度研究発表会. 2022年10月.	
緒方（木嶋） 彩乃	
齋藤美矢子, 牛尾裕子, 網木政江, 村上祐里香, <u>木嶋彩乃</u> , 鶴田良介, 榊原弘之. まちの減災ナース育成研修を通じた地区防災福祉コミュニティ形成の試み（プロトコル）. D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第8回学術集会. 2022年7月.	
楳原 京子	
荒野拓海, 田口岳志, 小池 勇輝, <u>楳原京子</u> , 松木宏彰, 鈴木素之. 時間防災学の視点を要いた雄物川流域「大曲地区」の洪水堆積物調査. 第57回地盤工学研究発表会. 2022年7月.	
松木宏彰, 鈴木素之, <u>楳原京子</u> , 川島尚宗. 東広島市黒瀬町の流紋岩地帯における土石流発生頻度. 第57回地盤工学研究発表会. 2022年7月.	
<u>楳原京子</u> , 桐村 喬, 小林茉由, 松多信尚. 集落立地の地形特性－救援物資輸送計画の基礎データとして－. 日本地球惑星科学連合2022年大会. 2022年5月.	
齋藤 美矢子	
<u>齋藤美矢子</u> , 牛尾裕子. 1歳6か月児健康診査における地域課題発見型事後カンファレンス実装の阻害・促進要因. 日本地域看護学会第25回学術集会. 2022年8月.	有
<u>齋藤美矢子</u> , 牛尾裕子, 網木政江, 村上祐里香, 木嶋彩乃, 鶴田良介, 榊原弘之. まちの減災ナース育成研修を通じた地区防災福祉コミュニティ形成の試み（プロトコル）. D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第8回学術集会. 2022年7月.	
平井 一志, 榊原 弘之, 神谷 大介, 赤松 良久, <u>齋藤美矢子</u> , 牛尾 裕子. デマンド交通による災害時避難支援の可能性に関するアンケート調査. 土木学会中国支部研究発表会. 2022年5月.	
鈴木 賢士	
<u>鈴木賢士</u> . 新しい降水粒子撮像ゾンデ Rainscope による梅雨集中観測計画. 線状降水帯の機構解明に関する研究会（第4回）. 2022年6月.	

<u>鈴木賢士</u>, 根間綾香, 原優里佳, 杉立卓治, 清水健作, 藤原正智. 新しい粒子撮像ゾンデ Rainscope による雲内の降水粒子落下速度測定. 2022 年度日本気象学会春季大会. 2022 年 5 月.	
高橋 征仁	
<u>高橋征仁</u>. 子ども会の<危機>は どこから来るのか?. 2022 年度コミュニティ政策学会シンポジウム. 2023 年 2 月.	
<u>高橋征仁</u>. 美男子平均顔の女性化と女性の配偶戦略の変化、そして自己家畜化. 2022 年度東アジア比較文化国際学術会議予稿集. 24-25, 2022 年 12 月.	
<u>高橋征仁</u>, 染川みさと. 美男子平均顔の時代変化と女性の選り好み. 日本人間行動進化学会第 15 回大会. 16-16, 2022 年 12 月.	
辻 智大	
<u>辻智大</u>, 岸本博志, 藤田浩司, 中村千怜, 古澤明, 大西耕造, 潮田雅司, 福岡仁至, 太田岳洋. 九重火山 54ka 飯田噴火における 2 回のマグマサイクル. 日本火山学会 2022 年度秋季大会. 2022 年 10 月.	
<u>辻智大</u>, 納庄 毅. 山口県防府市剣川における過去約 1,000 年間の 土石流堆積物の年代層序. 日本応用地質学会中国四国支部研究発表会 発表論文集 25-28, 2022 年 11 月.	
<u>辻智大</u>, 太田岳洋, 藤原尚起, 中田英二, 潮田雅司, 中村千怜. 阿蘇カルデラから 170 km 離れた山口市徳地における Aso-4 火砕流堆積物の発見. 一般社団法人日本地質学会第 129 年学術大会. 2022 年 9 月.	
鶴田 良介	
斎藤美矢子, 牛尾裕子, 網木政江, 村上祐里香, 木嶋彩乃, <u>鶴田良介</u>, 榊原弘之. まちの減災ナース育成研修を通じた地区防災福祉コミュニティ形成の試み（プロトコル）. D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第 8 回学術集会. 2022 年 7 月.	
村上 祐里香	
<u>村上 祐里香</u>, 牛尾裕子. 管理職保健師が捉える COVID-19 流行下の保健所に入職した新人保健師の成長. 日本地域看護学会第 25 回学術集会. 2022 年 8 月	有
石丸美奈, 牛尾裕子, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 坂井文乃, 鈴木悟子, 斎藤美矢子, <u>村上祐里香</u>. 認知症との共生を目指した地域づくり活動協働デザイナー協働方法によるケアリングコミュニティモデル検討ー. 日本地域看護学会第 25 回学術集会. 2022 年 8 月.	有
斎藤美矢子, 牛尾裕子, 網木政江, <u>村上祐里香</u>, 木嶋彩乃, 鶴田良介, 榊原弘之. まちの減災ナース育成研修を通じた地区防災福祉コミュニティ形成の試み（プロトコル）. D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第 8 回学術集会. 2022 年 7 月.	

森 啓年	
森啓年. 河川・海岸護岸周辺の空洞・陥没発生過程に関する研究. 第4回路面下空洞対策連絡会. 2023年2月.	
森啓年. 堤防ダイアログWG活動報告(堤防工学ノムコウ). 第10回河川堤防技術シンポジウム・企画セッション. 土木学会, 2022年12月.	
中村仁美, 森啓年, 佐古俊介, 榎谷麻衣, 永谷英基, 川野健一, 今井道男. 土質の違いに着目した越水時の河川堤防のひずみ発生状況の分布型光ファイバセンサによる計測実験. 第57回地盤工学研究発表会. 21-5-1-07, 2022年7月.	
森下 徹	
森下徹. 城下町萩と武士の暮らし. 高知県立坂本龍馬記念館連続講演会. 2022年10月.	
森下徹. 城下町と武士の暮らし. 山口市シティーカレッジ. 2022年10月.	
森下徹. 萩藩の足軽と身分. シンポジウム 彦根藩足軽の実態と特質—萩藩との比較から 2022年8月20日	
山本 晴彦	
山本晴彦. 持続可能な社会の実現に向けた農業・気象防災学の役割. 日本農業気象学会 2023年全国大会. 2023年3月.	
山本晴彦, 古場杏奈. わが国において2022年に発生した洪水・土砂災害の特徴. 令和4年度日本農業気象学会中国・四国支部大会. 2022年12月.	
山本晴彦, 古場杏奈. 2011年以降にわが国で発生した豪雨災害における降水量の比較解析. 第41回日本自然災害学会学術講演会. 2022年9月.	
吉本 憲正	
初村直也, 吉本憲正, 中田幸男. 豪雨災害分別土を模擬した土の液状化特性に及ぼす密度と細粒分含有率の影響, 第74回土木学会中国支部研究発表会発表概要集, III-25, pp.228-229, 2022年5月.	
多岐涼太, 吉本憲正, 中田幸男, 梶山慎太郎. 異なるガスで構成されるガスハイドレート含有砂のせん断特性, 第57回地盤工学研究発表会講演集, No.20-4-2-01, 2022年7月.	
多岐涼太, 吉本憲正, 中下明文, 大本尚樹. クリンカアッシュと自然土混合試料の排水・非排水せん断特性, 令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会概要集, III-122, 2022年9月.	

D. 学会運営等

D1. 学会委員会

鈴木素之	
2021年6月 - 2023年5月	公益社団法人砂防学会 中四国支部 運営委員
2020年10月 - 2022年9月	公益社団法人土木学会 調査研究部門地盤工学委員会 斜面工学研究小委員会委員

2018 年 8 月 - 2022 年 6 月	公益社団法人地盤工学会 災害連絡会議 専門委員（降雨時の斜面崩壊）
牛尾 裕子	
2021 年 4 月-2024 年 3 月	千葉看護学会評議員
赤松 良久	
2022 年 4 月－現在	応用生態工学会 災害対応委員会委員
2017 年－現在	土木学会 水工学委員会／水工学論文集編集小委員会 委員
2017 年 9 月－現在	応用生態工学会 理事
2016 年 6 月 - 現在	水工学委員会 グローカル気候変動適応研究推進小委員会 幹事
2015 年 9 月－現在	土木学会 調査研究部門／水工学委員会／環境水理部会 委員・副会長
2015 年 9 月－現在	土木学会 調査研究部門／水工学委員会 委員
網木 政江	
2021 年 9 月 - 現在	日本災害看護学会 認証制度委員会 委員
鵜 心治	
2018 年 4 月 - 現在	日本建築学会特別研究委員会 委員
2003 年 4 月 - 現在	日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議運営委員会 委員
太田 岳洋	
2021 年 - 現在	日本応用地質学会 応用地質教育普及委員会 委員
2020 年 - 現在	日本応用地質学会 将来構想特別委員会 委員
2020 年 - 現在	日本応用地質学会 教科書執筆特別委員会 委員長
2018 年 - 現在	日本応用地質学会中国四国支部 会計監事
2017 年 - 現在	土木学会岩盤力学改訂版編集小委員会 委員
2016 年 - 現在	日本応用地質学会 火山地域における応用地質学的諸問題に関する研究小委員会 委員長
2014 年 - 現在	日本応用地質学会 理事
2012 年 - 現在	日本応用地質学会 環境地質部会 委員
楮原 京子	
2020 年 6 月 - 現在	日本活断層学会 行事委員会 委員
2020 年 6 月 - 現在	日本活断層学会 秋季学術大会実行委員会 委員 (2022 年度のみ委員長)
2016 年 6 月 - 現在	日本活断層学会 災害委員会 委員
2012 年 6 月 - 現在	山口地理学会 常任委員
坂口 敦	
2021 年 4 月 - 現在	農業農村工学会土壌物理部会 会計担当幹事

2021 年 4 月 - 現在	土壌物理学会 編集委員
辻 智大	
2021 年 9 月 - 現在	日本地質学会西日本支部会 役員
2019 年 - 現在	JSEG 火山地域の応用地質学研究小委員会 委員
2021 年 8 月 - 現在	土木学会 調査研究部門 原子力土木委員会 断層活動性評価小委員会 委員
中正 和久	
2021 年 4 月 - 現在	情報処理学会 中国支部 運営委員
2018 年 4 月 - 現在	日本 Mizar 学会 Mechanized Mathematics and Its Applications, Works in Progress (MMA-WiP) 編集委員
森 啓年	
2021 年 4 月 - 現在	地盤工学会 災害調査データの収集と活用委員会（堤防） 幹事長
2018 年 4 月 - 現在	International Commission on Large Dams, Technical Committee LE: Levees, Member
2017 年 4 月 - 現在	地盤工学会国際部 部員
2017 年 4 月 - 現在	公益社団法人 地盤工学会 中国支部 地盤と建設 編集委員会 委員
2017 年 4 月 - 現在	International Society for Soil Mechanics and Geotechnical Engineering TC201: Geotechnical Aspects of Dykes and Levees and Shore Protection, Corresponding Member
2016 年 10 月 - 現在	土木学会地盤工学委員会堤防研究小委員会 委員
2016 年 10 月 - 現在	土木学会水工学委員会グローバル気候変動適応研究推進小委員会 委員
山本 浩一	
2019 年 4 月 - 現在	日本水環境学会 湿地・沿岸域研究委員会 幹事長
2019 年 4 月 - 現在	土木学会 中国支部幹事
山本 晴彦	
2018 年 4 月 - 現在	日本農業気象学会 中国支部 幹事
2018 年 4 月 - 現在	照明学会 中国支部 幹事
2001 年 4 月 - 現在	日本農業教育学会 評議員
吉本 憲正	
2022 年 10 月 - 現在	sustainability Special Issue "Exploration of Marine Geological Resources and Geological Technology" Special Issue Editor
2022 年 5 月 - 現在	土木学会 中国支部 幹事
2022 年 5 月 - 現在	土木学会 中国支部 選奨土木遺産選考委員会委員
2022 年 5 月 - 現在	土木学会 中国支部 緊急災害調査対応委員会委員

2022 年 5 月 - 現在	土木学会 中国支部 表彰委員会委員
2022 年 5 月 - 現在	地盤工学会 海洋・港湾の地盤工学の新展開に関する研究委員会 委員
2021 年 12 月 - 現在	CREST 2023 若手育成委員会 副委員長
2021 年 6 月 - 現在	地盤工学会 地盤工学会誌編集委員会
2020 年 6 月 - 現在	日本材料学会 中国支部 学会賞選考委員会 委員
2020 年 6 月 - 現在	日本材料学会 第 69 期編集委員会 査読委員
2015 年 5 月 - 現在	地盤工学会 中国支部 幹事
2014 年 8 月 - 現在	日本材料学会 地盤改良委員会 委員

D2. 外部委員会等

鈴木 素之	
2020 年 4 月 - 現在	NPO 法人応用斜面工学研究会 理事長
牛尾 裕子	
2021 年 4 月-2023 年 3 月	山口県国民健康保険運営協議会 委員
2021 年 4 月-2023 年 3 月	宇部市建築審査会 委員
2022 年 3 月-現在	山口県地域保健関係職員現任教育検討会議 委員
赤松 良久	
2018 年 10 月 - 現在	億首川マングローブ保全・活用推進協議会 委員
2015 年 6 月 - 現在	天然アユがのぼる江の川づくり検討会環境部会
2015 年 2 月 - 現在	中国地方整備局浜田河川国道事務所高津川河床掘削懇談会 委員
朝位 孝二	
2021 年 11 月 - 現在	山口県河川委員会 委員
2021 年 4 月 - 2023 年 3 月	山口県防災会議 専門委員
網木 政江	
2021 年 7 月 - 2023 年 6 月	公益社団法人 山口県看護協会 教育委員会委員
2021 年 4 月 - 2023 年 3 月	一般社団法人 日本看護系大学協議会 災害連携教員
2022 年 7 月 - 現在	山口県災害看護研究会 会長
2018 年 5 月 - 現在	日本防災士会山口県支部 役員
鵜 心治	
2021 年 4 月 - 現在	山口市多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議 会長
2019 年 4 月 - 現在	日本学術振興会 学術システム研究センター 専門研究員
2018 年 4 月 - 現在	山口市新本庁舎整備専門会議 会長
2017 年 4 月 - 現在	光市都市再生推進協議会 会長
2016 年 4 月 - 現在	岡山県高梁市立地適正化計画策定協議会 会長
2015 年 4 月 - 現在	周南市都市再生推進協議会 会長

2015 年 4 月 - 現在	山口市都市計画審議会 会長
2014 年 4 月 - 現在	山口県建築審査会 会長
2014 年 4 月 - 現在	山口県都市計画審議会 会長
2013 年 4 月 - 現在	山口市景観審議会 会長
2012 年 4 月 - 現在	山口県国土利用計画審議会 会長
2009 年 4 月 - 現在	国土交通省中国地方整備局 景観施策アドバイザー
2005 年 4 月 - 現在	山口県 景観アドバイザー
太田 岳洋	
2022 年 11 月 - 現在	国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所 立山砂防工事専用軌道検討委員会 委員
2022 年 7 月 - 現在	広島県企業局水道工事技術委員会 委員
2021 年 3 月 - 現在	山口県土木建築部 外部アドバイザー
2019 年 - 現在	国土交通省 建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル改訂委員会 委員
2018 年 - 現在	下関市 下関市産業廃棄物処理施設設置計画専門委員会 指定委員
2018 年 - 現在	下関市 下関市廃棄物処理施設環境評価専門委員会 委員
2017 年 - 現在	山口県 山口県廃棄物処理施設環境評価専門委員会及び山口県産業廃棄物処理施設設置計画専門審査会
楮原 京子	
2019 年 9 月 - 現在	山口県希少野生動植物保護対策委員会 委員
2019 年 9 月 - 現在	山口県自然環境保全審議会 委員
2019 年 4 月 - 現在	山口県防災会議 専門委員
2016 年 11 月 - 現在	山口県秋吉台学術専門家委員会 委員
2012 年 7 月 - 現在	国土地理院 全国活断層帯情報整備検討委員会 委員
斎藤 美矢子	
2021 年 6 月 - 現在	宇部市社会福祉協議会 評議員
2020 年 11 月 - 現在	宇部市地域福祉計画等策定懇話会 委員
2020 年 4 月 - 現在	宇部市市営住宅審議会 委員
坂口 敦	
2021 年 4 月 - 現在	山口県庁 公共事業評価委員会
森 啓年	
2022 年 4 月 - 現在	国土交通省中国地方整備局 道路部 道路防災ドクター
2021 年 3 月 - 現在	土木研究センター 盛土強化工法研究会 技術委員長
2019 年 4 月 - 現在	中国電力 水力設備安全性評価委員会 委員
2018 年 4 月 - 現在	日本大ダム会議 ICOLD 委員会堤防委員会 委員
2017 年 4 月 - 現在	山口県土木建築部 技術アドバイザー

2017 年 4 月 - 現在	山口県教育委員会 防災出前授業 講師
2016 年 10 月 - 現在	国土交通省中国地方整備局 河川部 堤防技術研究会 有識者委員
山本 浩一	
2020 年 11 月 - 現在	宇部市環境審議会 委員
2016 年 11 月 - 現在	山口県土地利用審査会 委員
2010 年 4 月 - 現在	樫野川河口域自然再生協議会 委員
山本 晴彦	
2018 年 4 月 - 現在	山口県防災会議 専門部会 部会長
2015 年 4 月 - 現在	一般社団法人 やまぐち GIS ひろば 副理事長
2007 年 6 月 - 現在	日本防災士会山口県支部 支部長
吉本 憲正	
2018 年 4 月 - 現在	山口県土木建築部 技術アドバイザー

D3. 講演

辻 智大

講演「地上と地下(洞窟)から四国カルストを視る」／公開講演会（日本の洞窟学と四国西予ジオパークの魅力）／四国西予ジオミュージアム／2022 年 11 月 3 日

森 啓年

講演「Study on the process of river levee failures」／TGS-JGS Joint Workshop in 2022／2022 年 9 月

講演「河川・海岸護岸周辺の空洞・陥没発生過程に関する研究」／第 4 回路面下空洞対策連絡会，東京大学／2023 年 2 月

山本 晴彦

特別講演「持続可能な社会の実現に向けた農業・気象防災学の役割」／日本農業気象学会 2023 年全国大会／2023 年 3 月 17 日

E. 報道関係

E1. TV 放送

放送日	放送局	番組名	出演者
2023 年 3 月 24 日	「KRY ニュースライブ」 (KRY)	コロナ感染状況を下水で調査	赤松 良久
2022 年 10 月 29 日	NHK 山口 NEWS WEB	看護の知識で防災 宇部市で“まちの減災ナース”育成研修	保健衛生部門
2022 年 9 月 13 日	「情報維新！やまぐち」(NHK 総合)	宇部市において新型コロナウイルスの下水調査に関する実証事業を開始	赤松 良久

2022 年 6 月 7 日	「おはよう日本」(NHK 総合)	「広視野ドーム状ディスプレイを用いた 360 度 VR 降雨体験」について	赤松 良久
2022 年 6 月 6 日	「情報維新!やまぐち」(NHK 総合)	「360 度 VR 技術を用いた降雨強度体験コンテンツ」開発とその狙いについて	赤松 良久

E2. ラジオ放送

放送日	放送局	番組名	出演者
2022 年 6 月 8 日	FM きらら	「宇部市藤山・鶴の島・新川地区まちの減災ナース育成研修」開催 PR	牛尾 裕子 網木 政江

E3. 新聞

掲載日	新聞名	タイトル	該当者
2023 年 3 月 29 日	宇部日報	コロナの下水調査で成果 市、山口大など 実証実験【宇部】 https://ubenippo.co.jp/2023/03/29/1926952/	赤松 良久
2022 年 11 月 1 日	宇部日報	「まちの減災ナース」頼もしい“仲間”が 加わった	保健衛生部 門
2022 年 10 月 31 日	読売新聞	減災ナース 地域と連携：宇部市 3 地区 14 人認定 山口大センター	保健衛生部 門
2022 年 10 月 23 日	読売新聞	減災ナース育成広がる 防災知識を習得／ 避難計画作り	保健衛生部 門
2022 年 10 月 21 日	山口新聞	コロナ流行状況を下水で把握 宇部市、山 大などのグループが実証事業 https://yama.minato-yamaguchi.co.jp/e-yama/articles/49528	赤松 良久
2022 年 8 月 30 日	日刊建設工業新聞	日本工営、山口大学／DNA トレーサー技術 開発へ、漏水の原因把握などに活用 https://www.decn.co.jp/?p=145621	赤松 良久
2022 年 8 月 22 日	宇部日報	減災ナース育成研修会で被災者支援学ぶ https://ubenippo.co.jp/2022/08/22/1257931/	保健衛生部 門
2022 年 7 月 30 日	朝日新聞	連載「てんでんこ」現場に急ぐ研究者：5 https://www.asahi.com/articles/DA3S15372785.html?iref=pc_rensai_long_267_article	山本 晴彦

2022 年 7 月 27 日	朝日新聞	連載「てんでんこ」現場に急ぐ研究者：2 https://www.asahi.com/articles/DA3S15369399.html?iref=pc_rensai_long_267_article	山本 晴彦
2022 年 7 月 26 日	朝日新聞	連載「てんでんこ」現場に急ぐ研究者：1 https://www.asahi.com/articles/DA3S15367946.html?iref=pc_rensai_long_267_article	山本 晴彦
2022 年 6 月 21 日	読売新聞	「減災ナース」我がまち救え...避難計画策定にも参加 https://www.yomiuri.co.jp/local/kyushu/news/20220621-OYTNT50079/	保健衛生部門

F. 国際交流：外国人の受け入れ状況

山本 浩一

Sigit Sutikno、Muhamad Yusa、Ahmad Muhammad（インドネシア国リアウ大学・講師）、Hendra Saputra、Basir Noerdin（インドネシア国ブンカリス高専・講師）、Khusnul Setia Wardani（インドネシア国 Infrastructure Technology Centers Ports and Coastal Dynamics・研究員）／JSPS 二国間共同研究におけるワークショップ参加および打ち合わせ／2023 年 1 月 16 日～28 日

G. 表彰・評価関係

吉本 憲正

令和 3 年度 地盤工学会中国支部 論文賞／クリンカアッシュと自然土混合試料の圧密及びせん断特性／2022 年 4 月

H. 獲得研究費

【科研費】

鈴木 素之

科研費・挑戦的研究（萌芽），代表者，土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土砂災害切迫度算定モデルの検証，2022-06-30－2025-03-31

科研費・基盤研究（A），代表者，地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明，2019-04-01－2024-03-31

科研費・基盤研究（C），分担者（代表者：田口 岳志），堤体盛土を対象とした原位置簡易型ベンダーエレメント法の適用性検証に関する研究，2021-04-01－2024-03-31

科研費・特別研究促進費，分担者（代表者：二瓶 泰雄），令和元年台風 19 号及び台風 21 号による広域災害に関する総合研究，2019-12-04－2023-03-31

牛尾 裕子

科研費・基盤研究（C），代表者，「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法，2022-04-01－2025-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：石丸 美奈），認知症を有する人中心のケアリング・コ

コミュニティ協働デザインのツール作成と検証, 2021-04-01 – 2025-03-31

榊原 弘之

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 福山 敬), 立地とアクセシビリティの評価による地方
中小都市のコンパクト化の進捗の分析, 2021-04-01 – 2024-03-31

赤松 良久

科研費・挑戦的研究 (開拓), 代表者, 人工 DNA トレーサーによる流域の水・土砂動態の可視化,
2022-06-30 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (A), 代表者, 流域におけるノロウイルスの動態把握と流行予測, 2020-04-01 –
2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 新谷 哲也), UAV による湖沼・貯水池 3 次元水温モニ
タリングと水温予測システムの構築, 2020-04-01 – 2023-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 鈴木 素之), 地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防
災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明, 2019-04-01 – 2024-03-31

朝位 孝二

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 自己組織化マップを用いた前線系気象場と台風系気象場の分類
と防災情報提供への応用, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 山本晴彦), 水害常襲地における微地形情報と実績浸水
深に基づく洪水解析による水害リスクの再評価, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・特別研究促進費, 分担者 (代表者: 佐竹 健治), トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の
予測と災害に関する総合調査, 2022-02-15 – 2023-03-31

足立 亮介

科研費・若手研究, 代表者, スケーラブルな通信に基づくセンサネットワーク上の高精度状態推
定, 2020-04-01 – 2024-03-31

鵜 心治

科研費・基盤研究 (B), 代表者, コンパクトシティ計画の国際比較からみた地方都市のまちづく
りデザイン手法の提案, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 岡松 道雄), 境界領域における建築インターフェイス
の一体型滞在快適性評価に関する研究, 2022-04-01 – 2026-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 田村 誠邦), 縮小社会における総合的・中長期的な空
き家対策に向けた実証的研究, 2019-04-01 – 2023-03-31

太田 岳洋

科研費・挑戦的研究 (萌芽), 分担者 (代表者: 鈴木 素之), 土石流発生サイクルと不安定土砂の
堆積速度を導入した土砂災害切迫度算定モデルの検証, 2022-06-30 – 2025-03-31

大澤 高浩

科研費・特別研究員奨励費, 代表者, マレーシア農村部における水害および気候変動における水
供給について, 2022-11-16 – 2025-03-31

緒方 (木嶋) 綾乃

科研費・若手研究, 代表者, ネグレクトのハイリスク家族支援における「保健師が介入するタイ
ミング」に関する研究, 2019-04-01 – 2023-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 藤村 一美), ファミリー・バイオレンス予防のための地域参加型育児支援システムの開発, 2016-04-01 – 2023-03-31

楳原 京子

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 鮮新世以降の地形発達に着目した日本海東縁沿岸部に潜む活構造の解明, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・挑戦的研究 (萌芽), 分担者 (代表者: 鈴木 素之), 土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土砂災害切迫度算定モデルの検証, 2022-06-30 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 後藤 秀昭), 海底段丘と海底活断層から構築する相模トラフ周辺の新たな地殻変動モデル, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 鈴木 素之), 地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明, 2019-04-01 – 2024-03-31

斎藤 美矢子

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 1 歳 6 か月児健診カンファレンスシートを活用した地域の健康課題発見モデルの開発, 2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 牛尾裕子), 「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法, 2022-04-01 – 2025-03-31

坂口 敦

科研費・若手研究, 代表者, 土壌水分と作物の水ストレスの関係の定式化と予測値の圃場整備における活用, 2021-04-01 – 2026-03-31

白水 元

科研費・若手研究, 代表者, 干出時の地下水位変動による底質性状変化が干潟の地形変化に与える影響の解明, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者, (代表者: 朝位 孝二), 自己組織化マップを用いた前線系気象場と台風系気象場の分類と防災情報提供への応用, 2021-04-01 – 2024-03-31

高橋 征仁

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 庇護主義を超えてーポストコロナ時代のリスク意識に関する国際比較研究, 2021-04-01 – 2025-03-31

辻 智大

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 海は火砕流の移動を抑制するか? 阿蘇 4 火砕流分布と海域の比較, 定置温度からの制約, 2022-04-01 – 2025-03-31

中正 和久

科研費・若手研究, 代表者, 定理間の論理的な類似度に関する研究, 2020-04-01 – 2023-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 下井 信浩), ピエゾ極限センサを用いたインフラ構造物の簡易自律型健全性モニタリングシステム, 2020-04-01 – 2024-03-31

樋口 隆哉

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 悪臭発生現場における迅速・正確な臭気モニタリングのための嗅覚測定パッケージの作製, 2022-04-01 – 2025-03-31

村上 祐里香

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 牛尾裕子), 「正解のない問題」に取り組むメタ認知に

着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 斎藤美矢子), 1 歳 6 か月児健診カンファレンスシート
を活用した地域の健康課題発見モデルの開発, 2020-04-01 – 2024-03-31

森下 徹

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 西国の「城下町域」に関する基礎的研究, 2022-04-01 – 2026-03-31

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 西国の城下町域における労働社会の研究, 2018-04-01 – 2023-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 三田 智子), 岡山藩領における村落構造と<地帯構造>
についての基礎的研究, 2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 町田 哲), 近世山里の生業・流通・支配に関する構造
論研究―列島 4 地域の比較類型から―, 2020-04-01 – 2024-03-31

山本 晴彦

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 水害常襲地における微地形情報と実績浸水深に基づく洪水解析
による水害リスクの再評価, 2022-04-01 – 2025-03-31

吉本 憲正

科研費・基盤研究 (C), 代表者, メタンハイドレート生産に加熱法は適さないのか? ―熱・流体
移動特性の解明と評価―, 2020-04-01 – 2024-03-31

【受託研究】

赤松 良久

下水サーベイランスの活用に関する実証事業, 蓄積型パッシブサンプラーおよび Direct capture 法
を用いた下水中の新型コロナウイルスの迅速・高感度な検出法の適用, 2022/7~2023/1

国土交通省中国地方整備事務局三次河川国道事務所受託研究, オオカナダモ分布拡大の抑制に関
する研究に係る研究委託, 2020/4/1~2023/3/31

国土交通省中国地方整備事務局浜田河川国道事務所受託研究, 江の川における置き土が環境に与
える影響についての研究, 2020/4/1~2023/3/31

国土交通省中国地方整備事務局山口河川国道事務所受託研究, 佐波川における河道変化の効率的
なモニタリング手法と河道管理に関する研究, 2020/4/1~2023/3/31

楳原 京子

山口市新本庁舎整備区域における活断層の総合解釈, 代表者, 2022/5/20~2022/9/9

【共同研究】

赤松 良久

大林組・日本工営共同研究, 環境 DNA を活用したグリーンインフラの機能評価, 2022/9~2024/3

山口県建設技術センター 山口県官学共同研究, 衛星画像による河道形状および河川植生繁茂の時
空間変化の把握, 2021/5~2024/3

日本工営株式会社, 【流域環境学講座 (日本工営共同研究講座)】流域環境評価ツールとその活用
手法の開発, 2019/8/1~2024/3/31

山本 浩一

JSPS 二国間交流事業 インドネシア (DG-RSTHE) との共同研究, 代表者, 泥炭堆積物の輸送力学の確立, 2020/4/1～2023/3/31

吉本 憲正

中国高圧コンクリート工業株式会社, クリンカアッシュと自然砂の混合材料特性に関する研究 (令和 4 年度), 2022/7/1～2023/3/31

【その他の研究助成】

鈴木 素之

大成学術財団研究助成, ため池堤体における土質境界部の内部侵食の進展メカニズムの解明, 2021-2022 年度

赤松 良久

一般社団法人 中国建設弘済会 技術開発支援事業助成, 土石流・流出氾濫シミュレーションによる鉄道被災の発生リスク評価, 2021 年 4 月～2023 年 3 月

公益財団法人 中国電力技術研究財団 試験研究-(A), 助成アユの再生産を促進するダムフレキシブル運用に関する研究, 2021 年 4 月～2023 年 3 月

公益財団法人 河川財団 河川基金助成事業, 空気中の環境 DNA を活用した河川高水敷の鳥類・哺乳類の網羅的調, 2021 年 4 月～2023 年 3 月

公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金, 空気中の微量なウイルスのモニタリングシステムの開発, 2022 年 4 月～2023 年 3 月

太田 岳洋・辻 智大

日本国土開発未来研究財団学術研究助成, 定量化地生態学的手法による斜面災害危険度評価手法の開発, 2021 年 10 月～2024 年 9 月

森 啓年

国土技術研究センター・研究開発助成, 代表者, 越水した場合であっても「粘り強い河川堤防」の耐浸透性能に関する研究, 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

山本 晴彦

日本国土開発未来研究財団研究助成, 平成・令和期に発生した大規模水害における浸水想定区域の土地利用変遷と水害リスクの評価に関する研究, 2021 年 10 月～2023 年 9 月

鹿島学術振興財団研究助成, 令和期に洪水災害に見舞われた牛津川・球磨川における水害リスク評価と遊水地導入に関する住民意識調査, 2021 年 4 月～2023 年 3 月

吉本 憲正

中国建設弘済会 技術開発支援制度, 要素試験装置による 2 層地盤のせん断挙動解明のための新たな模型実験手法の開発, 2022 年 4 月～2024 年 3 月

中国電力技術研究財団 試験研究, 減圧法によるメタンハイドレート生産中に生じる出砂メカニズムの解明, 2022 年 4 月～2023 年 3 月

大成学術財団 研究助成, 二酸化炭素ハイドレートによる地盤改良技術の開発とカーボンリサイクル, 2022 年 4 月～2024 年 3 月

高橋産業経済研究財団 試験研究, 海底地盤中の二酸化炭素ハイドレートの存在状態の解明と地盤
改良への利用, 2022 年 4 月～2024 年 3 月

あとかき

2022 年度、山口大学地域防災・減災センターは発足 3 年目を迎えました。2022 年度は、第 6～8 回の計 3 回の防災・減災講演会を開催致しました。また計 2 回の国際防災・環境セミナーの主催、英国の University College London (UCL) との YU-UCL シンポジウム共催など、国際的な情報発信も展開致しました。

さらに、地域での活動として、山口大学のキャンパスが立地する宇部市藤山・鵜の島・新川地区において、宇部市との共催により、「まちの減災ナース育成研修」を実施致しました。この研修は、地域の看護職が、災害医療・看護の基礎知識について学ぶとともに、地域特性や防災・減災に関する課題に対し、看護の視点をもって課題解決していく能力を養うことを目的としており、コロナ禍や台風の影響を受けながらも、7 月から 10 月に計 4 回実施し、計 14 名が修了されました。今後、お住まいの地域、あるいは職場周辺の地域の防災・減災活動に取り組んでいただければと考えます。

次年度、地域防災・減災センターは、さらなる活動の充実を目指して、新たな試みを進めてまいります。学際的視野を持ち、地域の持続、発展に貢献できるような組織を目指してまいりますので、引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

副センター長（山口大学創成科学研究科工学系学域社会建設工学分野教授） 榊原 弘之